

5がつのくもの子の会だより

〈4.21.4.21〉

このおたよりを書いている時は、まだ平成ですが、はい、令和となります。新元号となり、また新たな時代、節目、令和という時代が、寧ろ、和らいたご中の子育て、育ちとなつていけばいいなあとは、思っています。この子育て交流くもの会も新しい出会いがあるといいです。

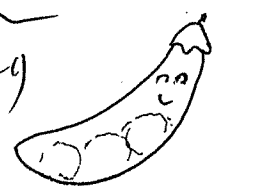


しているわけですが。お母さんが「おかしや」と言ったら、子どもが「たがいま！」と抱きついてくる場合もあるんです。また、子どもが、試合に勝つて帰ってきた。「お母さん、や、たせ！」と子ども。そこで、お母さんは、パシッと大きく握りて、「おじいちゃん！」と、手に力をこめて、こ、かきうけする。これは「愛してるよ」というサインです。子どもは、「うれしや」とニヤニヤしています。

～ 可憐子、可憐ない子 精神科医からのメッセージ ～
「可憐ない心」を育むために 石田 宏春 氏

〈「甘える」こと〉

甘えにからたのには甘えられず、十分な愛情を受けないで育つた中学生で、荒れ可憐子が多いと思っています。身体はす、かり太い子が、学校で「先生、おんぶして」と言ってきたりする子があつて言います。その子の心を育つてかわいさな話です。



言うことは「一人前だけれど」、幼児期の肌の触れあひという幼な体験をく、ていないからというのを求めるんです。高校生とか専門学生になつてもそういう子はいます。少なくとも中学、高校までは肌の触れあひを大事にしなくてはいいなあと思つています。

ちなみにそれはベタッとくっつくことではないです。たとえば、高校生でも「たがいま！」と帰ってきたら、「おかしや」とお母さんが飛びついていくぐらいのことでは、や、てあげていいです。子どもが「お母さん、気持ち悪いや」と言うなら、子どもが成長



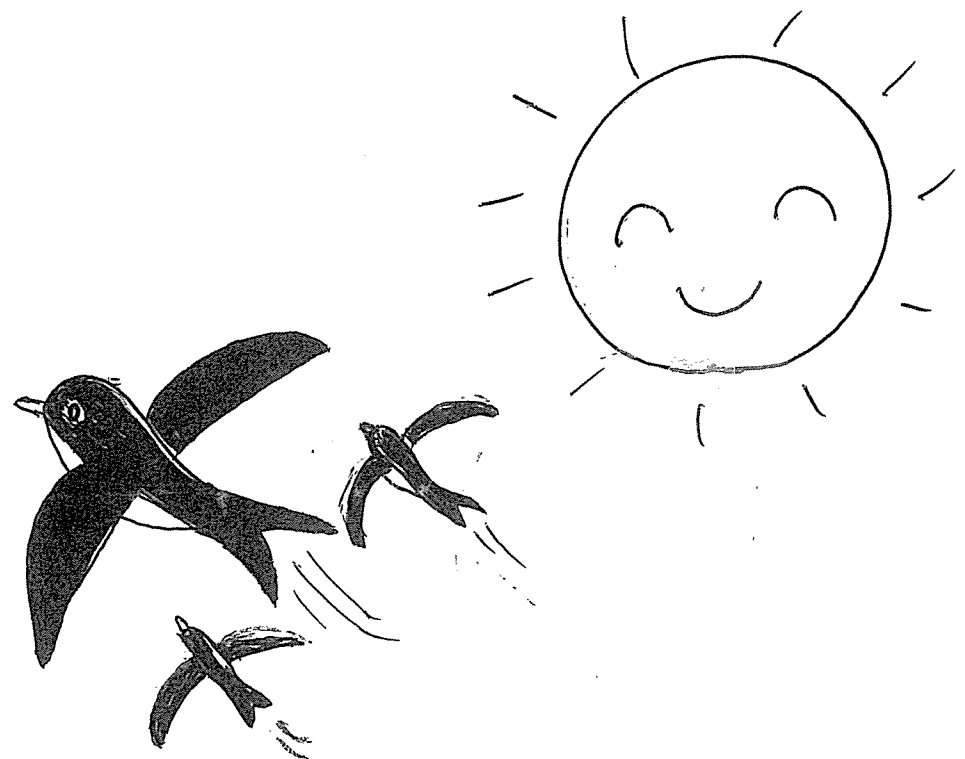
そういうオーバーな表現で、お母さんの愛情を子どもに示してや、てほしい。そういうと、「私たちはあなたを愛しているよ」と言つても、言葉だけでは信じられなくて、あつていふんです。肌と肌の触れあひに象徴される愛情表現が大事です。子どもがこれさような顔をしたら、あなたの愛は通じたんです。それは、中学、高校までと思っています。それ以上になつたら、そういう関係を取り返しと思つても、取り返せなくなつてしまつています。

〈「甘やかされる」ことと「甘えられ子」ことは違う〉

今の子どもたちの多くは、いろんな事件にみられるように、毎日が満たされず、悩んだり苦しんだりしながら生活しているわけですが、自分の悩みを誰かに聞いてもらいたいとか分かってもらいたいという、「甘えたい」、気持ちをもっていると思つています。ところがなかなかそれができず、荒れたら、「可憐子」してしまうわけですが、この「甘えたい」ということ、「甘やかされてきた」ということを混同してはいけません。

が悲しくなります。たまたま抱きしめてくれる人を求めています。
子どもは、ときどき、自己否定の感情にさらわれながらも、
抱きしめ、愛してくれる人に助けられて、自己肯定の気持ちに
なります。子どもの気持ちはいつもゆれているのです。
飛び降りなど決定的な死に方をすることは、まさに発作的
です。子どもは、この点、不器用です。発作的に極端な方法
をとってしまうのです。

だから、子どもには、逃げ場が必要です。逃げ場にな
いても逃げたくないのではありません。逃げ場があるという
安心感だけで、子どもの心の中には勇気がわいてくるのです。



～ 子育ての「5つのタブー」 ～

- ① 「努力しても無駄だ」という思いをいだかせてはいけません
- ② 子どもの行動の露骨な評価をしてはいけません
- ③ 子どもにマイナス評価をしてはいけません
- ④ 同時に多くの課題を与えてはいけません
- ⑤ 欲しいものをなんでも買ってやらないでください

～ 子どもとの話し方 3原則 ～

- ① 大人は口数を減らさない
- ② 話の腰をおらない
- ③ いやみや皮肉をいわない

